

第 10 回 市民会館の整備検討懇談会 質疑応答及び意見交換議事録

日時：令和 4 年 2 月 7 日（月）午前 10 時～午前 11 時

会場：名古屋市音楽プラザ 大リハーサル室

1 進行

- ・ 開会
- ・ 議事

新たな劇場の基本構想 完成報告

- ・ その他
- ・ 閉会

2 「新たな劇場の基本構想 完成報告」質疑応答及び意見交換 （市による配布資料の説明終了後）

黒田座長

ありがとうございました。本日お手元にあります基本構想については 3 年間にわたりご議論いただき、様々なご意見を頂戴し、取りまとめがされたわけですが、これまでの議論や今後の基本計画に向けて、本日最後の機会ということで、各委員の方々お一人ずつから、ご感想や最終的なご意見等、ご自由にお話をお伺いできればと思いますがいかがでしょうか。名簿順でご意見をいただきたいと思います。ではまず遠藤委員お願いします。

遠藤委員

基本的には、今まで議論されてきたことが全て反映されるということが一番望ましいと思います。皆さん各々の立場の意見があり、各々の意見が反映され、市民が期待できるような建物になるということが一番望ましいのではないかと思います。

黒田座長

ありがとうございました。続いて太下委員お願いします。

太下委員

まず、取りまとめご苦労様でした。今、2022 年は、2012 年に劇場法ができてからちょうど 10 年目になります。この劇場法というものがなぜできたのかを振り返ると、もちろん劇場の振興のためという大きな柱はあるのですが、劇場というものがいわゆる演劇やコンサートが上演される場という機能だけではなく、社会の広場になっていくという非常に大きなビジョンが提示されているわけです。そういった観点で、これから新たに多大な税金を投入してつくるこの市民会館のことを考えると、舞台芸術の場としてはかなりハード的にはきちんと検討されているのではないかと思います。もっと市民社会に開かれた、社会包摂機能を担う場としての劇場という役割がきちんと強調されてもいいのではないかと思います。おそらく、そういうことを考えていくと、今行っているように、単に再開発として劇場をどうするかという議論だけではなく、運営の

体制の検討も具体的に検討していくことが不可欠になると思います。特に、名古屋市で検討されているアーツカウンシルについて、正直前回聞いたときはかなり低水準な議論をしているように感じました。きちんこのアーツカウンシルの議論を連動させて劇場のあり方を今後議論していくことが求められるのではないかと考えております。

黒田座長

ありがとうございました。せっかくですので、アーツカウンシルについて今どのような進捗状況なのかをお答えいただける範囲で説明いただけますか。その後進展はありましたか。

蛭川委員

アーツカウンシルについて、現在の状況を説明いたします。今年度、改めて有識者会議を開催いたしまして、取りまとめを行っている状況です。来年度の立ち上げに向けて予算を要求している段階でございますので、認められれば来年度早々にアーツカウンシルの立ち上げに向けて動きたいと考えております。取りまとめられた内容を少しだけ説明いたします。大都市の中では後発組の名古屋でございますので、東京や新潟等他都市を参考にいたしまして、行政もしくは事業団等への提言、評価、助成及び支援等、アーツカウンシルに求められる役割全てを網羅して立ち上げていきたいということで進めています。

黒田座長

ありがとうございました。続きまして工藤委員お願いいたします。

工藤委員

まず、基本構想で、今まで議論してきた内容をまとめていただきました。特に私ども演劇関係の団体としては、700席～800席程度の演劇専門のホールが名古屋には無い状況のなかで、何よりも第3ホールというかたちで出現するということを非常に喜ばしく思っております。今回、質問があるのですが、昨年3月にこの会議で、整備方法が一括整備なのか段階整備なのかという話がありました。昨年12月の市会では、一括整備として、5年間ほど市民会館が稼働しないというようなことを聞いたのですが、それについてここに書くことではないのかもしれませんが、実際どうなのかをお聞きしたいです。また、新しい建物をつくるにあたって、それなりの時間が必要ということは分かるのですが、元々ホールが不足している事態において、市民会館自体が90%の稼働率のなかで、5年間のブランクは非常に大きいです。この90%の利用者はどこに行ったらいいのかということなど、様々な問題が生じると思いますが、その点についてはどうするのかをお伺いしたいです。もう一つは、基本構想の中で、特に管理の問題、すなわち、指定管理なのかどうなのか、人材はどうするのかについては、大切な問題です。引き続き検討をお願いいたします。

黒田座長

ありがとうございました。整備の方法について、一括整備なのか段階整備なのかについて説明をお願いします。

事務局

一括整備なのか段階整備なのかについては、昨年度の第8回懇談会にて議論されました。検討の中で、建設予定地は市民会館街区と古沢公園街区の2街区を使ってホール及びその他必要な機能を設置していきたいと考えておりますが、もし段階整備をする場合、ホールとして使われている市民会館街区には踏み込まないかたちで整備しなければなりません。そうすると、古沢公園街区に中ホール機能を設置する必要がありますが、現在検討している中ホールの大きさが1300席～1500席ということで、古沢公園街区内に収めることが難しいということが課題として出てきました。最終的には来年度以降の基本計画での検討になりますが、もう少し配置案を精査して、決めていくことになると考えております。今ここで結論が出たとは言えませんが、段階整備ではなく、一括整備が現実的なのではないかと考えています。段階整備をなぜ検討していたかについては、工藤委員の仰ったとおり、名古屋市の中で劇場の不足がかなり大きな問題になっている状況において、劇場不足を少しでも緩和する必要があると考えていたからです。一括整備になる場合、現在の市民会館利用者が整備期間中どここの会場を利用すればよいかに関しては課題であり、他の会場を使っていただくにあたり、名古屋市内で確保できるかは懸念材料です。他施設の状況も鑑みながら検討すべき課題であると認識しております。

工藤委員

難しい問題だとは思っております。休館の結果、市内の文化芸術環境が貧弱になってはいけませんので、引き続きご検討のほどよろしくお願いします。

黒田座長

難しい問題ですね。続きまして高北委員お願いします。

高北委員

今の劇場不足からの一括整備と段階整備の話を聞いていると、そこだけでもため息が出ますが、色々な条件がある中でこれが良いと私の立場から申し上げるものは揃っておらず、本当に悩ましいと思っております。今の話も含めて、市民の期待や新たな劇場という素敵なタイトルがついてありますが、新たな劇場ができる、すなわち今の市民会館から明らかに良くなると期待を寄せられるというムーブメント、もう始まっているのだということをもっと市民にアピールしていけないか、そして関心を持ってもらうなかで休止期間をどう捉えてもらうか、利用する人に留まらず、新たな劇場の開館を楽しみに待つという空気をつくっていくべきだと考えています。工藤委員が仰ったように、良い劇場ができたものの、完成したときには市内の文化芸術に関する状況がへたっているということではなく、精神性を維持できるような空気を作っていけないかと思っております。

黒田座長

ありがとうございました。続いて永井委員お願いします。

永井委員

皆さんの意見がそれぞれの立場から吸い上げられ、まとめられているという印象がありまして、よくこんなにお調べになったなと思います。ハード面もソフト面も、きめ細かく記述されているのはこれまで議論してきた甲斐があったなというのがまず印象です。こういった基本構想から次に行く段階で、もう少し考慮しなければいけない部分は出てくるとは思いますが、劇場をつくる時に、2000 年以降は、専門人材と市民参加、色々なサポートが必要であるという議論がされてきましたが、2000 年から 20 年経った今でもまだまだ専門的な人材が不足していると感じられます。こういった中で、名古屋市が中心となり、先頭を切って、専門人材を整備してくれると嬉しいと思います。特に 36 ページの基本理念、ミッションですが、「文化芸術に対する市民の興味を喚起し」という文言がありますが、市民の興味を喚起したり、劇場に関心の無かった市民に届けたり劇場を浸透させるには、専門人材の力が大切ですが、芸術だけではなく市民にどう届けるかという両方の側面を実行できる人材でないとできないことです。芸術監督とプロデューサーが両方いるというのは難しいかもしれませんが、プロデューサーの役割は一つではないので、芸術的な側面や、劇場スタッフとの連携等、創造発信のために必要な要素は外さずに、名古屋市として進めてほしいです。また、8 ページにあるように、2000 席のホールの利用について、こういった利用がこれまであったのかに加えて、専門人材がこういった方向性でやっていくかによっては今までにない利用率も期待できると思いますので、整理していただけたら嬉しいです。

黒田座長

ありがとうございます。専門人材について具体的な議論をしてきましたが、従来の指定管理のやり方だと難しいので、柔軟に考えて頂ければと思います。では西川委員お願いします。

西川委員

多岐にわたる意見を基本構想にまとめられたご苦労に感謝いたします。盛り沢山な内容ですが、ここから何を削っていくかということだと思います。私は伝統芸能の立場から言いますと、伝統的な花道や所作台等ですが、日本固有の機構などがございますので、これをゼロにはしていただきたくないという個人的な希望はございます。とは言いながら、私は私たちの舞踊会ですと、1000 人以上の劇場で色々な方がおさらい会で発表をするとか、昔はそういうコミュニティがあったのですが、確実に今そのコミュニティが無くなりつつあります。現在私は 4 つの大学で講師をしておりますが、ほとんどの方はライブすら行ったことが無いという現状があります。VR ゴーグルをつけて仮想空間で、一人でネットにつながって何かをするというのは私にはなじみのないものではありますが、そういったことも増えてます。劇場をつくると、演者の意見も聞かなければいけません、プロモーターの意見、観客の心地よさも考えなければいけません。更に、観客を育成する必要もあります。観劇する、劇場に行くというコミュニティを、また新たな、仮想空間で楽しんでいる皆さんにも新たなリアルなダイナミズムを楽しんでもらえるようにするためには、永井委員も仰ったように、市民の皆さんの気持ちを喚起するような専門家の人選が重要になってくるのではないかと思います。これは、コミュニティをつくってきた専門家がやはり起用されるべきではないかと思っております。

黒田座長

ありがとうございます。続いて林委員お願いします。

林委員

一括整備か段階整備かについては少し聞こえづらかったのでまた教えてください。5年ほどの休館が必要という話に合わせて、民間の三井住友海上しらかわホールがクローズするという話もあります。おそらくほかにも天井脱落防止の改修工事が必要なホールがいくつかあると思われますので、市内のホールの有り様を大局的に考える必要があります。運営体制も含めて、グランドデザインをどうしていくかということを考えなければなりません。文化振興計画も新しくつくられました。こういった運営体制は生々しいこともあって、踏み込みにくい内容です。公開できるようなものではないかもしれませんが、市の関係者のみなさんで検討いただきたいです。PFIで民間活力を使っていくことになると思いますが、自治体のコミットメントは不可欠ですので、民間に丸投げせずに、計画していったほしいと思っております。

黒田座長

ありがとうございます。蛭川部長、後でまとめてお答えをお願いします。松岡委員はご欠席なので、眞野委員をお願いします。

眞野委員

私は最後の方にこの懇談会に参加させていただいたので、議論の全ては承知しておりません。既にご議論いただいている内容があればご指摘ください。

神奈川県は三つのホールを抱えており、今私はそのうち二つの館長を務めています。そのうち一つは、劇場法と同時に劇場法の理念に沿って作られた劇場で、もう一つは、1970年代の半ばに各県の政令指定都市に作られ始めた、大きな、いわゆる多目的ホールの先駆けのようなホールです。ですので、今の皆さんの議論が、ひしひしと私にはね返っています。今の私たちにとって一番大切なのは、今の議論の取りまとめが20年先にまだ有効なのかという課題だと思います。10年先、20年先にどうなっているか読み難いと特にこの2年間言われていますが、演劇やその他の表現は、この先に何が来るのかについて予感能力を持つが故に生き延びてきたと感じています。建物が20年先も30年先もさらに先も有効であることを予感できなければならないということで、もう少し議論ができればよいと思います。太下委員も仰ったような、劇場法の理念にある「社会の広場」についても、今の「社会の広場」と5年先や10年先の「社会の広場」というのは異なりますから、今ではない「将来の名古屋」に何が必要なのかを考えなければなりません。将来名古屋がどのような政策を進めていくのか、それは横断的な組織であるアーツカウンシルで集約できるのか、それよりもっと違う大きな行政の下にはめ込んでいくのか、そういうところまで考えを及ばせなければなりません。5年間の空白は確かに沢山の方にとって不便な点ではありますが、この空白は色々なことを考えるにあたって良い空白になるかもしれません。劇場がないときに、どのようにして文化事業をそれぞれの団体が進めていくのかを考える機会になるでしょう。アーツカウンシルについては、条例が上書きされるのであれば何が上書きされるのかについて議論されたのか、今後の懇談会においてそのような課題意識をもって進めていただきたいと思います。今の基本構想は良くまとまっていますが、これはその先の話です。ぜひ、名古屋という興行

都市でなければできないようなものにしてほしいです。

黒田座長

ありがとうございました。もう少し長期的な視点が必要であろうということでした。続いて山元委員お願いします。

山元委員

先ほど林委員からもありましたが、しらかわホールが閉館になるというのは、私ども演奏団体にとっては大きな問題です。当初、この会議が始まったころは、700 席規模の音楽専用のしらかわホールがあり、1800 席規模の愛知県芸術劇場のコンサートホールがあり、それらを想定したうえでこの会議にも臨みました。この後どのようにホールが運用されていくのか決まったわけではありませんが、最初、この会議が始まったころに、周辺のホールも含めてそれぞれのホールの役割や特性を活かした利用の仕方を利用者の皆さんにも促していくことが必要だと話しましたが、眞野委員も仰ったように、既存のホールと新しいホールをより特性を活かした使い方をしていきながらそれぞれのホールを活性化していくことが大切かなと思っております。とはいえ、しらかわホールが近い将来使えなくなるというのは現実問題として困った問題で、特に最近しらかわホールを使う機会が増えていたアマチュアも含めたそれぞれの団体が、色々なホールを探し求めることになりますので、周辺のホールとうまく連携し、周辺の稼働率の低いホールを活用しながら新しい市民会館ができるまでの間過ごしていき、新しい市民会館ができたときにはそれぞれの利用者がうまく館に合った形で利用できるようになればと感じております。

黒田座長

ありがとうございました。本日出席されている委員からは一通りご意見を頂戴しました。いくつか質問をいただきましたが、蛭川部長から答えられる範囲でお願いします。

蛭川委員

委員の皆様、非常に多岐にわたるご意見をありがとうございます。返答できるものについて回答いたします。

まず、高北委員と永井委員からご指摘いただいた、市民へのアピールや市民の理解を得ること、そして専門人材をいかに確保していくかの2点については、アーツカウンシルの議論でも大きな課題であるとして議論されました。アーツカウンシルについては来年度の立ち上げに向けて準備を加速していくという状況です。アーツカウンシルの仕組みについてご説明いたします。一つは、有識者からなる文化芸術評議会を立ち上げます。これまで名古屋市の文化行政では、そのタイミング毎に提言を受けてきました。例えば昭和の時代に受けた提言では、その提言を受けて事業団を立ち上げ、芸術創造センターを設置しました。平成の時代に受けた提言では、文化小劇場の建設を行いました。このように、いただいた提言に応じて名古屋の文化芸術は進んできており、今回の懇談会のように、その折々に有識者に集まっていってご意見をいただきながら進めてきました。今回のアーツカウンシルの立ち上げに伴い、文化芸術評議会は常設で置きたいと思っております。そしてその常設の会議が名古屋の文化芸術について、評価しながら提言をしていくと

いう仕組みを立ち上げることができます。これは、名古屋の文化芸術行政にとってとても大きなインパクトがあると思っております。この文化芸術評議会は司令塔でございますので、その下にパートナー及び実行部隊を、当初は任意団体として立ち上げる予定ですが、その中に専門人材を雇用し、集中的に取り組んでいただくということを考えております。これらの二つの組織を併せ持って、名古屋のアーツカウンシルを組織するということを考えており、人選を含めて検討しています。その議論の中でも、文化芸術関係者のみならず、市民にどのようにアピールするか、市民に味方・ファンになってもらうにはどうすればよいかという話がありました。これも、来年度の組織の立ち上げと同時に何ができるかを考えていきたいと思っております。市民会館に関しては来年度基本計画の策定を目指しますが、同時にアーツカウンシルの組織を立ち上げ専門人材を確保していくので、お互いに良い影響を与え合って名古屋のアーツカウンシルと新たな劇場をより有効なものとしていきたいと考えています。眞野委員のご指摘にもありましたが、有識者会議ではこれまでよりさらに将来に向けての検討が常時行われ、調査・研究機関としてのアーツカウンシルの実行部隊もいますので、そこでレベルを上げていくことができると考えております。令和4年度につきましては、その二つのミッションにしっかりと取り組んでいきたいと考えております。専門人材の活用については、西川委員にご発言いただいたように、コミュニティを形成できる専門家は必須だと考えておりますので、また具体的な人選の中で検討していきたいと思っております。

また、林委員からご指摘のあった一括整備と段階整備の話を変えてご説明いたします。先ほど事務局からも説明いたしましたが、元々計画では、ホール不足への対応のために、古沢公園街区に中ホールを先行して整備するという段階整備を検討していました。しかし、約50年ぶりの建て替えということもあり、余裕をもった配置やコロナの影響を踏まえてソーシャルディスタンスを意識した設計を考慮すると、段階整備は可能なのか、一括整備の方が良いのではないかといった議論がなされました。まだ決定したわけではなく、来年度の基本計画の中で進めていきますが、一括整備が現実的ではないか、というのが現状の到達点です。ご指摘のように、5年間2つのホールが無くなりますので、その他のホールとの連携が必要であり、来年度以降具体的に検討していかなければならないと思っております。

管理運営体制については、繰り返しになりますが、アーツカウンシルで先行して専門人材を獲得し、常設の提言機能を持つので、そことの連携をしっかりとりながら議論を進めていきたいと考えております。名古屋のアーツカウンシルは来年度早々に立ち上げを予定していますが、その議論をしっかりと見ながら基本計画の策定を進めていく予定です。

黒田座長

ありがとうございました。委員の方々、その他、追加で何かありますでしょうか。特によろしいでしょうか。眞野委員どうぞ。

眞野委員

アーツカウンシルができ、上位の組織が常設的に設けられるということですが、現実的にはこれから作られる劇場がPPP/PFIである場合や周辺の施設の受け入れ具合はアーツカウンシルの範囲から外れますよね。名古屋全体を見て名古屋全体の文化芸術を統括するわけにはいかないですよ。

蛭川委員

アーツカウンシルがまだ立ち上げっていない状況でどこまで言えるかというのはありますが、アーツカウンシルは劇場文化に限らず名古屋の文化行政全体に目配りをするということを理想として描いています。その中での PPP/PFI については、管理運営の中で行政がどれだけコミットしていけるかが重要であると先ほどお話をいただきましたが、来年度の管理運営を考えるにあたっては、行政のコミットの仕方をどうするかが一番大きな論点ですし、行政の関わり方については、当然アーツカウンシルの中で議論いただくべきテーマであると考えておりますので、その辺りをにらみながら、名古屋の文化行政が、市民会館という切り口の中で何ができるかをしっかり来年度議論したいと思っております。

黒田座長

ありがとうございました。他に何か委員の方から何かご質問ありますでしょうか。PFI は当初の発想と比べるとだいぶバラエティが豊富になっており、もう少し官の関わり方を強化するようなやり方も各地で取られているのでご検討いただければと思います。

特に委員の方からのご意見が無いようでしたら今日の議論はここまでにさせていただきます。

最後に、私の感想をお話します。しらかわホールの話が先ほどから出ておりますが、実は、私は名古屋に来てからしらかわホールが一番好きでした。ところが数年前に自主公演が無くなりまして、行く機会が少なくなっておりました。最近でもかなりトップレベルのコンサートが開かれており、音響環境が非常に良かったので、はたして閉鎖されるのか存続されるのか非常に心配しております。市民会館も一括整備だと5年間使えなくなる可能性があるということです。他のホール等で代替できるのか可能性を検討いただきたいと思います。国際会議場の改修は先に来ると思いますが、完全に同等な施設ではないですが、金城ふ頭の国際展示場も新館が完成しカジュアルなコンサートであれば可能かもしれません。名古屋という都市の文化行政のあり方ですが、東海3県は伝統的に日本の製造業の中心をずっと担ってきており、ものづくりに関する日本の心臓と言えます。ですが、自動車がEVや自動運転に代わってくると、かなり地域の産業構造が変わるでしょうし、文化的な魅力も工業地域にとって必要なものにますますなりつつあると思います。日本の伝統芸能の中心地でもあります。あまり表に出てこない残念な状況ではあります。また、私の専門分野についての話ですと、最近はこの地域のトータルの人口は変わっていないのですが、男女比を見ると、若い女性が東京に吸い取られて減っています。製造業の工場があるので、就職のタイミングで若い男性はむしろ関東から来ていますが、若い女性は東京に取られて、男女比率がアンバランスになっています。理由ははっきりとは解明されていませんが、一つは女性の管理職比率が名古屋及び愛知県は東京に比べると低い点と、製造業が中心なので、職種のバラエティが東京に比べると限られる点で、若い女性は第3次産業であるサービス業の多い首都圏に取られているのかなという気もいたします。文化行政というと大げさですが、その辺りの幅広い文化芸術活動等の育成というのは、名古屋の魅力を改善するために必須ではないかと思っています。

これまでの数年間、委員の皆様には様々なご意見を頂戴してきました。それでは、本日の議事はこれまでとして事務局に司会をお返しいたします。

事務局

本日はありがとうございました。最後に、名古屋市観光文化交流局文化歴史まちづくり部長の蛭川より、ご挨拶申し上げます。

蛭川委員

委員の皆様におかれましては、ご多忙のところ、また、このようなコロナ禍の状況の中で本懇談会にご出席いただきましてありがとうございました。令和元年8月に第1回懇談会を開催し、その後約2年半の長期にわたって開催し、本構想の策定にご協力いただきましたことを改めて厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。先ほど議論がありましたが、市民会館が開館してもう49年が経ち、老朽化が著しくなっております。加えて、名古屋は先ほどしらかわホールの例もございましたが、この10年スパンで、大規模・中規模ホールの閉館が続いておりまして、需要が大変高い状況です。そのような状況の中での整備ですので、色々と考えなければならない課題が多いと思っておりますが、劇場不足で、全国で行われているような魅力的な公演が名古屋では無いといった現状を踏まえると、やはり市民会館をしっかりと整備していきたいと思っておりますので、来年度は基本計画の策定に着手し、精一杯良いものを作りたいと思っております。我々は観光文化交流局ということで、観光や文化の側面からアプローチを求められる局でございますので、そこにしっかりと貢献できるように取り組んでいきたいと思っております。皆様方にはこれからも引き続き本市の文化芸術の振興にご協力いただきたいと思っております。ありがとうございました。

事務局

市民会館につきましては、金山のまちにおいて重要な施設です。先ほど段階整備の話でも少し触れましたが、ホールの話ばかりでなく、周辺の公園・広場等、地域の方々にどう親しまれていくかといった視点も、金山のまちづくりにおいて考えていかなければならないと我々も認識しておりますので、今後とも皆様のご意見を広く頂戴したいと思っております。

これを持ちまして第10回市民会館の整備検討懇談会を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。

以上